

国内感染症報告の状況(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

資料No.3-4

No.	報告受理日	一般名	患者 性別	年代	原疾患	感染症名	投与年月	投与前検査 (年月)	投与後検査 (年月)	企業投与前 検査	企業投与後 検査	献血者個別 NAT	献血者個別NAT	備考
1	2007/4/2	人赤血球濃厚液	女	70	外傷・整形外科的疾患	B型肝炎	06/09	HBsAg(-) (06/09)	HBsAg(+) IgM-HBcAb(+) (07/03)		HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (07/04)	陽性(輸血後)	保管検体2本についてHBV-NAT実施。(全てHBV-DNA(-))	・献血者の1人が当該献血約4ヶ月後の2007年1月にB型肝炎を発症し、現在療養中であるという情報を2007年4月5日に入手。 ・医療機関での検査結果(2007年1月19日採血):HBsAg(+), HBeAg(-), HBeAb(+), IgM-HBcAb(+), HBV-DNA(+) ・医療機関より2007年4月5日採血の当該献血者検体の提供あり、当該検体にてHBV関連検査実施。結果: ・HBV-DNA(+) ・患者検体と献血者(HBV陽性提供検体)とのHBV塩基配列の相同性について調査実施。 ・ウイルスの解析:患者検体と献血者(2007年4月5日採血の上記提供検体)とで、PreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、両者は全て一致した。献血者と患者のHBVウイルスはGenotype Cで塩基配列からSubtype はadwと推定した。
2	2007/4/2	人血小坂濃厚液(放射線照射)	男	60	外傷・整形外科的疾患	O型肝炎	06/10	HCVコアAg(-) HCV-Abs(-) (06/10)	HCVコアAg(+) HCV-Abs(+) (07/03)		HCV-RNA(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管検体1本についてHCV-NAT実施。(HCV-RNA(-))	調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輸血血との因果関係なしと考えたとの見解が得られた。
3	2007/4/4	人血小坂濃厚液(放射線照射)	男	60	血液腫瘍	B型肝炎	06/02	HBsAg(-) (06/01)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (07/03)		HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(+) (07/03)	陽性(輸血後)	保管検体1本についてHBV-NAT実施。(HBV-DNA(-))	調査結果を受けて、担当医から副作用・感染症と輸血血との因果関係なしと考えたとの見解が得られた。
4	2007/4/13	人赤血球濃厚液(放射線照射)	男	40	腎・泌尿器系疾患	細菌感染	07/03	-	腔内血培は陰性。 ・抗血漿タンパク質抗体検査:陰性 ・血漿タンパク質欠損検査:欠損なし 同一採血番号の血漿(1本)で無菌試験を実施。結果:「適合」					
5	2007/4/13	人赤血球濃厚液(放射線照射) 人赤血球濃厚液 人新鮮凍結血漿	男	60	腎・泌尿器系疾患、循環器疾患等	B型肝炎	06/11 06/11 06/11	HBsAg(-) (06/11)	HBsAg(+) (07/03)	HBsAb(-) HBcAb(-) HBV-DNA(-) (06/11)	HBsAg(+) HBsAb(-) HBcAb(+) HBV-DNA(+) (08/11)	陰性(輸血前) 陽性(輸血後)	保管検体13本について12本はHBV-DNA(-)、1本はHBV-DNA(+)	患者検体と献血者(HBV陽性保管検体)とのHBV塩基配列の相同性について調査実施。 ・ウイルスの解析:患者検体と献血者(HBV陽性保管検体)とでPreS/S領域を含むP領域の前半部の1550bpの塩基配列を比較したところ、両者の塩基配列は1ヶ所において相違がみられたが、それ以外は全て一致した。 ・献血者と患者のHBVウイルスはGenotype Cで塩基配列からSubtype はadwと推定した。